

編集者
網本・菅原
発行者
もり・きよし

私立短期大学図書館協議会

Bulletin of Junior College Library Association

1983. 2. No.12

図書館業務へのマイコンの徹底的活用

—昭和58年度短期大学図書館全国研修会のご案内—

今日、図書館の機械化の必要性は、万人の認めるところです。一方、図書館界をながめやるとき、高価な汎用コンピュータを駆使したシステムの実施例や報告の類は、国内外を問わず多くの例にふれることができます。しかし大多数の図書館、とりわけ短大図書館にあっては、このような高価な機械の導入を前提とした機械化論は、現実とかけはなれた画餅にすぎません。かといって、どんな予算規模の小さい図書館でも導入可能なマイコンで、しかも小型オートカメラのように素人にも簡単に使いこなせるシステムの実施例となると、現在の図書館界では皆無といえます。しかしこのような実施例や報告こそ、一部の恵まれた図書館はさておき、大多数の図書館の機械化にとって必要不可欠のものです。

さいわい、私ども協議会の仲間であり、かつ強力な援助者である国学院大学栃木学園図書館では、数年前から廉価なマイコンによる図書館業務処理に、意欲的にとりこんでられました。そして、貸出管理はもとより、予算管理、雑誌管理、蔵書管理、情報検索と、図書館業務全般にわたってコンピュータ化を実現され、業務の合理化、省力化に瞠目すべき成果をあげておられます。この貴重な実践例を広くご理解いただき、短大図書館におけるコンピュータ化に自信と展望をもっていただくことを念願し、本協議会では昨年5月に、NEC PC 8001システムを25台用意して一大研修会を開催しました。

この研修会は非常に好評であり、またその後も多くの図書館の方々から同様の研修会を望む声が寄せられました。そこで本年度は、昨年度の研修会の内容を量的にも質的にも一層充実させ、下記により開催いたすことにしました。今回の研修会のために用意するマイコンは、漢字処理も可能な「NEC PC8801システム」を30台、

その他にバーコード・リーダーや、コンピュータのことが全く分らない人でも短時間で業務処理能力の修得が可能なソフトウェア「PARM PC (漢字用)」などを準備します。これらを用いて、参加者は講師の指導のもとに、マイコンを実際に操作しながら、バーコード、リーダーを使用しての貸出管理や蔵書点検、また予算管理、雑誌管理、蔵書管理、ワードプロセッサ等々の多岐にわたって実習します。

図書館のコンピュータ化は決して難かしいものではありません。マイコンのキーボードに慣れ、市販のプログラムを上手に使いこなす方法を身につけさえすれば、全くの初心者でも、マイコンによる図書館業務処理は明日からでも始められます。本研修会は、参加者の方がこのことについて自信と展望をもっていただけるように、その研修内容に工夫を凝らしています。コンピュータについて初心者の方ももちろん、ある程度の経験者の方も、積極的に参加されることをおすすめします。

なお、このように多数のコンピュータを準備し、それを実際に操作しながら図書館業務の機械化について研修する場合は、わが国の図書館界において他に例をみません。これはひとえに国学院大学栃木学園図書館と同図書館との絆からご援助下さる協賛団体のお力添えにより実現したものです。しかしこれらの方々の献身的、犠牲的援助に、いつまでも甘え続けることは道義的にも許されませんので、本協議会としてはこの種の研修会を今回で一応終符を打ちたいと考えています。つきましては、マイコンによる図書館業務処理の研修会は今回が最後とお考えいただき、この機会をのがすことのないようご注意願います。

(文責：事務局 渡辺 敏一)

昭和58年度・短期大学図書館全国研修会開催要項

テーマ：図書館業務へのマイコンの徹底活用！

日時：昭和58年8月4日(木)～5日(金)

会場：大阪市内(詳細は4月頃決定)

参加費、定員、申込方法、申込締切、申込先等についても4月頃決定

2：50～5：00 コンピュータ実習「雑誌管理」

第2日目(8月5日(金))

9：00～11：00 コンピュータ実習「図書管理～発注・受入・原簿作成・増加図書目録作成」

12：00～1：30 コンピュータ実習「ワードプロセッサ」

1：30～3：50 コンピュータ実習「自由課題の演習」

4：00～5：00 講演

日程 第1日目(8月4日(木))

9：00～ 受付

9：30～10：00 開会

10：00～11：30 講演

12：30～2：30 コンピュータ実習「貸出管理」

老残剩語：図書館は、ありがたい

客臘、私は中・四国地区協議会のお招きで岡山へ向出した。会長校は津山の美作女子短大図であるが、その館長・村上先生のご配慮により同館の忘年会に私も相伴に与って楽しい宴に参加した。館長は鳥取の人で、鳥取大学の名誉教授でいらっしゃる。鳥取と言えば私には司書の第一歩である。すでに半世紀を閲するし在鳥わずか3年有半であったが、なにかと懐しい思い出につながる。先生とは初対面であるが旧知のようにあれこれと鳥取の話に耽った。先生は酒豪ないし愛酒家でカクシヤクたる大人で話はずきない。

さて、翌日の協議会は岡山県立図(文化センター)で行われたが、私は早目に出かけて同館の郷土資料室を訪ねた。私は大阪生れであるが本貫は岡山の在である。その昔、祖父が若い頃「悌道」を以て郡役所から表彰されたという。その記事が収録された小冊子があり、私の少年期に父からもらって所持していたが戦災で失った。書名は善行録、邑久郡役所の発行で大正初期の出版だったという記憶を手がかりに、その原本をみたいと思ったからである。

氏名も告げずカウンターに婦人司書に訊ねてみると、ベテランの司書は、二、三の冊子目録を調べて、すぐに隣室から現物を取り出してもらった。入室票も提出せず、

住所姓名もたずねられない。わずか数分で入手ができた。この窓口サービスには頭が下がる。国鉄さんの窓口が概して不親切さに比して公共図の窓口は仏さまのように見える。退出するときに名刺を差出し厚くお礼を述べて会場へ向ったわけである。後刻、館長にも謝意を述べた。

公共図では地域資料の収集と利用に専門家を配置し各館とも力を入れている。同館は戦災館であるから、借りた本は戦後に個人から寄贈を受けたい。一般的には価値の乏しい資料でもあっても、関係者にすればここまで収集されていることに当然とは言え感謝に堪えない。

因に「邑久郡善行録」(郡役所、大4刊、菊60p)は、貞婦、孝行、などいわゆる善行を収録したもので、維新後の庶民対策の一つであったらしい。祖父の場合は悌道厚く明治3年12月27日に岡山県庁から簇生されたりとある。理由は「今年24ニ罷成ガ一昨年辰年六月儲金差出団地一反六畝ヲ買求メ兄・定蔵ニ相与ヘ……………悌道相尽シ農業ノ基本ヲ立遺シ候……………褒美鳥目三十貫文被下候(10銭×30貫=3円)」とある。

私ごとくに紙面を浪費、申しわけない。

(奎郎)

地区協議会活動報告

— 北海道・東北でもマイコン研修 —

<北海道地区>

当地区では、昨年9月に開かれた今年度の研修会（会場：北海道武蔵女子短大）において、懸案の「北海道地区短大図書館所蔵逐次刊行物目録」（仮称）の編集方針について検討をおこなった。これによって58年3月末には各館からの原稿の回収を終え、9月には刊行の予定で、各館において目下作業が順調にすすんでいる。

また、その研修会の席上、加盟館（出席者）からコンピュータ講習会の開催についての強い希望が出された。

これは短図協が昨年5月に東京で開催した講習会には、道内からの参加者が少なかったことと、図書館においてはコンピュータが最大の関心事であることを反映したものと見える。

開催の決定から、わずかに2カ月たらずで実施できたのは、ひとえに短図協事務局とりわけ渡辺敏一氏と片山喜八郎先生とのコンピュータによるご協力に負うところが大きかった。当地区協として厚く御礼を申し上げる。

「北海道地区における図書館業務に関するコンピュータ実務研修会」は、昭和57年11月20日～21日（土、日）の2日間にわたり、北海道武蔵女子短大を会場として開催した。

第1日（11月20日(土)）

午前 講演 マイコンと図書館（国学院栃木学園、片山喜八郎先生）

映画 パソコン私の場合 — ここまで使える
NECパソコン —

午後 PC-8001（15台）による実習

指導：片山喜八郎・渡辺敏一両氏

第2日（11月21日(日)）

午前 — 午後 実習（指導：前日に同じ）

当日の参加者41名の内訳はつぎのとおりである。

短大図書館加盟館	22名
短大図書未加盟館	1名
大学図書館	7名
専門図書館	6名
公共図書館	3名
学校図書館	1名
会社	1名

◎道内の短大では近年図書館の新築が目立っているが、北星学園女子短大と北海道女子短大（いずれも加盟館）

の両館がすでに完成しているが、光塩学園女子短大（札幌市）では創設者の南部氏の功績をたたえる南部記念館（図書館）を昨秋から着工し、目下工事がすすめられている。当地区としてはその建物の完成をまって同館が加盟することを期待している。

<東北地区>

私短図協東北地区図書館協議会の昭和57年度研修会兼総会は12月初旬、東北地区の理事館山形女子短大図書館を会場として開催の予定である。

研修テーマについては、過般5月末開催された「私短図協」第一回全国研修会のあとを踏まえて、研修テーマは「私立短大図書館の近代化・機械化」。第一回全国研修会には、時期の関係等で参加できなかった館も相当あるので、今回は東北地区の加盟館以外に、未加盟の私立短大図書館にも呼びかけ、「私立短大図書館」の明日へのよりよき前進のために貢献するよう企画中である。理論と実践の両面からの研修を実現しやすい段階を目的にして研修することになっている。

なお、本学（山形女子短大）の図書館に56年4月よりコンピュータ（機種、三菱MELCOM-80/28N）が設置されていることは、会報第9号に既報の通りであるが、使用開始1年半、コンピュータのよい面の威力を身にしみて実感しているという状況である。

従来、1週間以上の時日を必要とした蔵書点数が2日間で悠々、余裕たっぷりに出来るところなど、まさに近代機械化の長所といえるであろう。貸出し、返却、予約、諸統計という毎日の図書館業務が正確、適切に処理されている。目下、3万1千冊の蔵書の内、3千冊がコンピュータに未入力であるが、この入力が完了すると、コンピュータによる全蔵書の検索が可能となる。

◎57年度研修テーマ設定についての経緯の報告

年1回の貴重な研修会なので、地区加盟館の希望を汲むこと、先ず、第一に幹事館（仙台白百合短大図書館長宮城清先生）との協議に入ったが、宮城先生は明快に短大図書館の近代化、機械化OKとの回答であった。

「近代化、機械化」は短大図書館にとって喫緊至上の命題である。この命題を棚上げしておいて「短大図書館の在り方について」などという太平春昼夢の講演に、貴重な研修会の半日をついやした（という厳然なる事実が

2・3年前まではあったのだから) オメデタイ話である。しかし、かく言う筆者もウンザリしながら拝聴していたのだからやはりバカの一族にちがいない。

加盟館に同いを立てると全館OK、やがて来るべきJAPAN MARC の時代に備えて、ナショナル・プランにおどかされても遅々として進まない国立大学を尻目に、先ず東北地区私立短大より近代化・機械化の先鞭をつけて行こう、ということになった。断じてやれば出来るのだ。

東北地区の理事館山形女子短大図書館がこれを実証している。学園理事長さんの理解と英断のお陰であるが、55年度に工費5億円の新図書館が出現し、翌56年度には、三菱MELCOM-80/28N固定磁気ディスク装置40MB(容量10万冊)とブックディテクション装置1850を導入したという実績がこれを証明する。夢はひたすらに努力すれば実現するのだ。

東北地区のテーマ設定について、推進力になったものを特筆すれば渡辺敏一「私立短図協」事務局代行の「短大図書館研究」に発表の近代化・機械化についての研究論文、折々の「会報」に掲載の啓蒙エッセイの数々である。正にこの方面の理論家としてトップレベルである。

もう一人は国学院栃木短大の片山喜八郎氏である。実践家として天馬空を征くの燃がある。第1回全国研修会の際の「マイコンと図書館」の講演ならびに映画による解説は、堂に満ちた参会者をウーンと唸らせたものであった。実践力と信念の闘魂であった。

渡辺敏一氏、片山喜八郎氏を「私立短図協」を代表する「二人の偉大なる牽引力」という世評は至言である。

東北地区研修会の講師には、この両雄以外にはなしということになった。

◎「会報」編集者より「短大図書館めぐり」を東北地区から選定するよう、との指示があった。東北地区では躊躇することなく秋田市所在の「聖霊女子短大図書館」を一致して推すことにした。館長北条忠雄氏(秋田大学名誉教授)の統卒のもと、三浦、高橋のすぐれた両司書が綿密な図書館業務を行っている。

秋田市の北部の高台にあり、旧城跡のお濠を眼下に、遠くはるかに日本海の煙波を望むという秋田の城下町の一等地に位している。新設間もないので、周辺の松林の緑り一映じて、セピア色の校舎が一段と高雅清爽、東北地区に所在するすばらしいキャンパスの一つである。

◎地区の図書館動向

福島女子短大、桜の聖母短大など近代化・機械化に熱心さを示しており、新加盟の羽陽学園短大(谷口恒男館

長、林司書)が意欲をもって図書館の充実に取り組んでおり、加盟館のほとんどが機械化について関心と大きな期待をもって臨んでいる状況である。

北海道地区(阪本理事)が、東北地区よりも1カ月早く、10月中旬に東京からNEC PC8000を空輸し、渡辺敏一、片山喜八郎両氏を講師として、研修会を開催し、非常な盛況を示されたが、どうも“近代化・機械化”という面においては“光は北方から、大きな不逞な夢”を抱いているのはどうやら北海道、東北という北方地域らしい。

〈東北地区昭和57年度研修会概要〉

期 日:57年12月11日(土)

会 場:山形女子短大図書館(理事館)

研修主題:「短大図書館の近代化・機械化とこれに伴う諸問題」

講 師:渡辺 敏一氏(私立短図協事務局代行)

屋島 正機氏(山形電子計算センター)

使用機種:BUBCON 80 CONSOLE DISPLAY

はじめ、会場館に装備の三菱MELCOM 80について、図書館で実際に貸出し、返却、予約、延期、検索等を十分に見てもらって、渡辺敏一氏の「基礎理論」の講義を受けた。すべて将来の大きな発展を望むには、先ず基礎理論から、という東北地区一同の信念に拠ったものである。

また東北人らしく、“Slow, but steady”を研修の信条とした。“図書館の仕事ほど、電算化しやすいものはない。但し、漢字の問題を除けば、図書館業務ほど、電算化に向いているものはない”ということばを渡辺敏一氏は徹底されたが、2時間にわたる基礎理論は参加者一同に大きな感銘を与えた。次いで、屋島正機氏(山形大学文学部理学科出身)はハードの専門家として明快卒直にコンピュータの原理について、種々の術語の解説を交えながら話を進められたが、専門用語の一つ一つについて、機械をもとにして知ることが出来たのは有益であった。

屋島氏の解説のあと、渡辺、屋島両氏が図書館の種々の業務を行う場合についてプログラミングについて解説があり、あとは参加者一人一人がコンピュータにすわって手ほどきを受けた。

参加者の熱心な質問が次ぎからつきへと続き、研修会のあとに、地区協議会総会を予定していたが、「総会」をつぎの機会にゆずり、研修オンリーとした。

なお、地区加盟館の希望が多いので、58年度において同じ講師による地区研修会を開催を予定し、両講師とも

58年度研修会の持ち方について新工夫を行われることを確約された。

<関東・甲信越地区>

昭和57年度の地区総会を3月下旬に開く予定で準備している。なお当日講演会(講師・テーマ未定)も予定している。加盟館 58.1.30日現在70館

<東海・北陸地区>

<会報8号, 32ページ, 150部, 57.7.1.発行>

内 容

1. 昭和57年度第1回幹事会記事
2. 昭和56年度事業報告及び決算
3. 昭和57年度事業計画及び予算
4. 図書館の近況
(富山女子, 愛知学泉女子, 山田家政, 仁愛女子, 星稜女子)
5. 短期大学図書館全国研修会に参加して
(名古屋短大: 鈴木明日香)
6. 付属資料
○私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会会則及び内規。
○名簿(会員名簿, 役員名簿, 図書館員名簿)

<昭和57年度第2回役員会及び昭和57年度総大会>

日 時: 昭和57年8月27日 午前11時30分~午後4時

場 所: 北陸学院短期大学

出席者: 20校(会員校以外1校) 38名

○役員会(10校)

総会提出議案について審議決定

○見学 午前11時30分~12時20分

北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館

○総会

議長: 名古屋短期大学 森野貞次郎

協議事項

1. 昭和57年度第1回幹事会報告
2. 昭和57年度中間報告
3. 雑誌目録頒布方法について
書店依託について
4. 昭和58年度総大会会場校について
会場校: 聖徳学園女子短期大学

以上の議事について, 可決, 承認された。

○研究会 午後1時30分~4時

司会: 金沢女子短期大学 大橋秀二

東海学園女子短期大学 山田秋子

助言者: 北陸学院短期大学図書館長 梶井重雄

1. 事例発表

- (1) 図書館利用教育について
聖徳学園女子短期大学 長沢千恵
- (2) 図書館業務の簡素化について
金城短期大学 北野良子
- (3) 本学図書館の実状について
仁愛女子短大 加藤人己

2. 自由討議

時間の都合により自由討議は割愛された。提出された議題については, 各館が事務局の方へ解答を提出し, 会報に掲載することになった。

閉会 午後4時

<会報9号, 16ページ, 150部, 57.12.1.発行>

内 容

1. 総大会(57年度)記事
2. 図書館業務の簡素化について
3. 仁愛女子短期大学の実状
4. 自由討議議題解答の集計
5. 北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館紹介
6. 北陸部会第3回定例会議記事
7. 北陸部会々則
8. 本部および他地区の動き
事務局報告
9. 付属資料
昭和57年度図書館調査票

<昭和57年度東海地区研修, 見学会記事>

日 時: 57年12月15日(水) 午後12時30分から4時30分
まで

場 所: 愛知淑徳短期大学 出席者: 23名

研修会

テーマ: スタッフマニュアルを作るには

1. 事例発表 名古屋短大 鈴木明日香
2. 資料収集, 管理規程に設けたい項目
資料収集, 管理資料整理マニュアルに設けたい項目
3. その他(自由討議)
自己研修のためにどのように勉強をしているか

見学会 午後3時30分~4時30分

椋山女学園大学附属図書館(住所: 名古屋市千種区田代町瓶入1-254)の施設を見学。

<北陸地区の活動報告>

北陸部会第3回定例会議

日 時: 昭和57年10月7日

会 議: 午前11時30分~午後1時30分

見学：(金沢工業大学ライブラリーセンター)

午後1時30分～3時40分

場所：金沢女子短期大学

出席者：11名

議題

- (1)私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会北陸部会の会則について
席上配布された会則案について、協議の結果、可決・承認された。
- (2)今後の北陸部会の行事について
ア金城短大から、研修会は出来れば学校が休みの時期に開催されると出席しやすいと申し出があった。
イ星稜女子短大から、行事の内容については各幹事館に任せてはどうかと提案があり承認された。
- (3)その他
ア洗足学園魚津短大の加盟について、北陸学院短大から、意向を伺ったところ今しばらく様子を見て態度を決めたいと返答があった旨報告があった。
イ昭和58年度の幹事館について、他大学から金沢女子短大に引続き務めるよう要請があり、金沢女子短大が来年度も幹事を引受けることになった。

<近畿地区>

<総会及第12回研修会>

日時：1982年4月2日 2時～4時

場所：平安女学院短期大学

参加者：46名

(総会)

1. 昭和56年度会勢、活動報告
2. 昭和56年度会計報告
3. 昭和57年度事業計画
4. 昭和57年度予算

(研修会)

講演 「中小田と整理委託」(藤井千年氏)

<第13回研修会>

日時：1982年10月16日

場所：平安女学院短期大学

参加者：39名

講演 「大学図の蔵書構成」(河井弘志氏)

<中・四国地区>

昭和57年度中・四国地区総会・研修会概況

期日：57.12.21(火)

場所：岡山県総合文化センター

参加者：16名

I 総会

理事挨拶、経過報告、会計報告

II 研修会 講演 「短期大学図書館の在り方について」

講師 本協議会会長 もり・きよし氏

III 協議

- 1.会の名称を現在の「私立短期大学図書館協議会中国・四国図書館協議会」から「私立短期大学図書館中国・四国地区協議会」に改める。
- 2.会の規約制定について……なるべく早い機会に制定するという方向で検討する。
- 3.会合の開催について……遠隔の地が多く館員の数も少いので集り難いが私立短期大学図書館担当者研修会等の機会を利用してでも総会は毎年開きたいし、研修会も2年に1度ぐらい持ちたい。
- 4.今後の活動について
○紅要の交換……加盟館相互に残さずする。
○図書館利用案内……現在あるものはもちろん今後新しく作製したり改訂した場合は交換し合う。
○雑誌目録刊行、目録基準の検討、その他整理業務の合理化、省力化の研究、その為各館の実態調査など、とりあえず焦点をしばって研修を進めることを来年の当番館(比治山女子短期大学)におまかせする。
- 5.当番館を2年ごと各県ごとに割付けた
57・58年 岡山、広島
59・60年 愛媛
61・62年 鳥取・山口
63・64年 香川
65・66年 広島
67・68年 愛媛

<九州地区>

○1982.7 九州地区加盟館名簿作成。

○九州地区私立短大雑誌目録作成準備中

○昭和58年度九州地区私立短期大学図書館協議会総会および研修会を4月25日(月)北九州のひびき荘で開く予定で準備をすすめている。

学園史資料と図書館の役割

前川ひろみ

成安女子短期大学図書館は、昭和51年から学園史編纂の事務局を引き受けている。「60年史」編纂にあたって関係資料はどのようになっていたのか、今後どのようにしなければならぬのか、実情をここに記します。

たとえば、認可申請書類とはじてあったが、申請書類と認可書類はバラバラで散逸していたので、文部省や府庁や公文書館等で補う必要があった。職員の履歴書は残っていた方だが、在職年月日が不明のものが多かった。日誌・会議録類は手に入らなかったが、たまに手に入ったのは焼却寸前だった。卒業記念写真帳は比較的残っていたが、昭和18年ごろから戦後の混乱期には作られなかったもので、その間の歴史は埋没してしまった。学園事情が総合的にわかるような学内出版物は、何かの記念の時のみまとめられているが保存が十分でなかった。学園歌や校章や校訓などは制作当時の事情がわからなくなっていた。後援者とのいきさつが創設者の没後不明となった。学生生活の資料はほとんどなかった。関係者をたずねても、死亡・退職・老齢なので、たよることができないことも多かった。録音テープは機器が変わって再生できないこともあった。

何故こういうことがおこったのだろう。誕生したばかりの少人数の学園が飛躍をとげていく過程で組織的に変化し脱皮しつづけるとき、資料の歴史的保存は考えられなくて、前へ前へとせいっぱい動いていて、つまり資料の整理保存はできなくて、実質的に廃棄処分されてい

たのであろう。昔は一つの学園であったが今は分化し、短大や高校・中学校・幼稚園などと独立性を持つに至ると、資料保存は簡単にゆかなくなる。小さくは部や科・コースの変遷、研究室の異動、役職の交代などで資料が引きつがれないものが出てくる。増改築工事や異動や設備の過密化のどさくさなどで消えていく。処分される機会はいくらでもある。ゴミ箱や焼却場の前で、学園史関係者に危うく拾われた資料が沢山あったが、(名簿・生徒手帳・クラスの文集・シナリオ・行事予定表・ピラータぐいなど)、しかし整理とは捨てることと心得ているものの方が断然多いのが実情であらう。

図書館では、学生の出版物や学園内の発行物を集め整理し、製本し保存しているが、今後どのようにすれば良いのか? 学園内に常設の学園史資料蒐集保管の部をもうけるのが一番良いが、学園史編集は記念行事で、それが終ると編集部局は解散する場合が多く、これは改められなければならない。私のところでも現在60年史の仕事はしているが、80年史、100年史へのスタートはしていないし資料集めを位置づけられていないが、図書館は十分にその技術を持っていると思う。日常業務のなかで大小にかかわらず学園の変化をみつめて、資料蒐集・複写・整理保存しつづけるには、図書館こそは長期的な保存方法を知っている唯一の機関ではないだろうか。他校では、どのように対処しておられるのか教えて下さい。

(成安女子短期大学附属図書館)

私立短期大学図書館協議会新加盟館紹介(会報10号以下追加)

昭和58年2月14日現在

短期大学図書館名	〒	住 所	連絡責任職	氏 名
<北海道> 国学院女子短大	073	北海道滝川市南滝の川70	司 書	一 戸 ゆきえ
<東北> 羽陽学園短大	994	天童市大字高嶺南 901	—	—
<中・四国> 徳島工業短大	779-01	徳島県板野郡板野町伏蓮花谷 100	—	近 藤 吉 克
今治明德短大	794	今治市矢田字西之窪甲 688	教務課長	谷 口 益 男
<九州> 尚 綱 短 大	862	熊本市九品寺2丁目6-78	司 書	小佐井 裕 子

※ 退会：東海大学医療技術短大(昭和57年5月19日受理)

＜短大図書館めぐり 第10回＞

聖霊女子短期大学図書館

本学園は明治41年にオランダに本部を持つ聖霊奉待布教修道女会のメンバーが幼稚園を開設以来、女学校、中学校、高等学校と発展し、昭和29年には短大が設置された。その後昭和43年に校舎が手狭になったため、短大だけが現在地に移転した。ここは秋田城跡（平安中期）の一角にあたり、秋田市を一望する静かで恵まれた環境にある。設置学科は英語科、家政科、音楽科で学生数は約650名である。図書館は当初4階にあったが、昭和56年11月校舎増築に伴い新校舎の1階へ移転した。但し史跡の中の建造物のため非常に規制が多く、十分な面積がとれなかったことは誠に残念である。

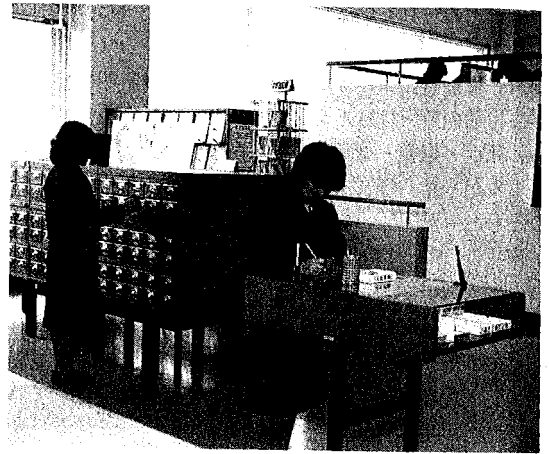
延面積は354㎡、斜面という地形をそのまま利用し、1部2階建となっている。

収蔵能力は開架約1万冊、閉架は手動式移動書架を使用し約2万冊で、現在の蔵書数約4万冊のうち短大設置当時にアメリカ文化センター等から寄贈になった古い洋書2万冊は、やむをえず旧図書館跡に別置し司書の資格をもつ教官の方に管理していただいている。閲覧座席数は56席、非常に少ないので席だけを借りたい人には、他にあるStudy room等も利用してもらうことにしている。教職員のためには別に閲覧室をもうけている。職員は館長（兼任）と司書2名、新図書館とはいっても全く小規模図書館の見本のような、ないないづくしの図書館である。収書方針としては少ない予算をより有効にということで、設置学科に関連する専門書とキリスト教関係の図書及び参考図書にほぼ限定し、一般教養的なものはほとんどないというよい。

学生の利用は年間の館外貸出冊数が、4,500冊余りで、今まではあまり活発とはいえなかったが、昨年より指定図書制度を始めたこと、卒業生にも図書館を開放したこ

と等で、少しずつながら増えてきているようである。なによりも学生に図書館に来てもらうことが一番と、入りやすく親しみやすい図書館を目ざしているせいも、最近ではブララジングコーナーの利用者も増え、少々騒がしいという困った問題も出てきている。PR活動としては収書月報（お知らせ等を含む）、参考図書案内（年1～2回）を発行しているが、学生の反応はいまひとつのようである。司書2名とも勤務して7年、ようやく仕事も軌道にのってきたように思うが、日常の業務に追われがちでカウンターで仕事をしながらも学生と親しく接触することはあまりないように思う。本の番人になるよりは、教官、学生から信頼される優しいアドバイザーになりたいと思うが、現実にはどうであろうか。

（聖霊女子短期大学図書館司書 三浦 万里子）



＜事務局報告＞

会 勢（昭和58年1月末日現在）

北海道地区	16	近畿地区	50
東北地区	12	中・四国地区	23
関東甲信越地区	70	九州地区	28
東海・北陸地区	26	（合計	225）

本部役員会

○昭和57年度第3回役員会

昭和57年7月9日（金） 於：日本図書館協会

報告事項

1) 昭和57年度短大図書館全国研修会

2) 地区協議会の活動

3) その他

協議事項

1) 『短期大学図書館研究 第4号』の件

2) 『会報、第11号（特集号）』の件

3) その他

○昭和57年度第4回役員会

昭和57年9月30日（休） 於：日本図書館協会

報告事項

- 1) 会 勢
- 2) その他

協議事項

- 1) 『短期大学図書館研究 第4号』の件(継続)
- 2) 昭和57年度短大図書館全国研修会の総括
- 3) その他

○昭和57年度第5回役員会

昭和57年11月12日(金) 於：鶴見大学

報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 地区協議会の活動
- 3) 『会報 第11号』の発行
- 4) その他

協議事項

- 1) 『短期大学図書館研究 第4号』の件(継続)
- 2) 昭和58年度短大図書館全国研修会の件
- 3) その他

○昭和57年度第6回役員会

昭和57年12月23日(木) 於：日本図書館協会

報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 地区協議会の活動
- 3) 『資料組織化の実践』の刊行
- 4) その他

協議事項

- 1) 『短期大学図書館研究 第4号』の件(継続)
- 2) 昭和58年度短大図書館全国研修会の件(継続)
- 3) 『会報 第12号』の件
- 4) その他

○昭和57年度第7回役員会

昭和58年1月27日(木) 於：日本図書館協会

報告事項

- 1) 会 勢
- 2) 地区協議会の活動
- 3) その他

協議事項

- 1) 『短期大学図書館研究 第4号』の件(継続)
- 2) 昭和58年度短大図書館全国研修会の件(継続)
- 3) 昭和58年度総会の件
- 4) その他

~~~~~ 短 信 ~~~~~

### 昭和57年度私立短大図書館研修会概要

## ○図書館担当者研修会

私学研修福祉会主催、日短協図書館研究会実施による研修会が8月4日～7日まで名古屋の愛知会館を会場として行われた。テーマは「短期大学図書館の現状と将来」で内容は基調講演、全体会ではメインテーマのもとに、機械化についてパネルディスカッションと図書館建築においては事例発表が行われた。また例年の分科会、今回は4つ設け活発な討議が行われ、最終日は見学。

## ○図書館研修会

東京都私立短大協会図書館研究協議会による研修会が7月22日～23日の2日間東京の私学会館で行われた。

テーマは「短期大学図書館と機械化」講演は国学院栃木短大図書館長の片山氏、事例発表が4件と機械化についてのパネルディスカッションが行われた。2日目見学。

### 紀要第4号近々発行

4号におきましても加盟館のご協力により原稿も十数編あつまり、目下編集・印刷に入っており、3月には発行されると思います。

I F L A 東京大会準備委員に当協議会から2名 I F L A 東京大会が'86年8月開催されます。その準備委員として宮島敬久氏(共立女子短大)、有岡章氏(鶴見大学女子短大)が選ばれた。

**編集後記**：年度末で期末試験、入試、また新年度準備などで忙しい毎日と存じます。会報第12号をお届けいたします。82年は本協議会発足して5年目を迎えたわけですが、地区においても整備がととのい、充実の年だったと思います。中央で、地方で省力化、機械化に取り組む姿勢で、熱心な研修会が実施されました。

省力・機械化はこれから好む、好まざるとにかかわらず図書館界に進化してきます。この対処に館員ひとり、ひとり関心を示さなければならないと思います。(S)

|     |                 |      |                       |
|-----|-----------------|------|-----------------------|
| 発行所 | 私立短期大学図書館協議会    | 〒181 | 東京都三鷹市牟礼4-3-1         |
|     | 東京女子大学短期大学部図書館内 |      | TEL: 0422 - 45 - 4145 |

## 出版 物 案 内

## 私立短期大学図書館協議会

○会 報 年3回 現在12号

## ○資料組織化の実践

遠藤英三著 B5判 411頁

頒布価格 2,300円

申込先 私立短期大学図書館協議会

〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1

東京女子大学短期大学部図書館内

電 話 (0422-45-4145 内234)

## ○私立短期大学図書館総覧 1979.3.31

B5版 700頁 頒布価格3,500円

## ○私立短期大学図書館総覧

80.10.31

B5版 66頁 頒布価格2,500円

## ○短期大学図書館研究

1号 80.3.31

2号 81.3.31

3号 82.3.31

4号 83.3.31

頒布価格 各2,800円

3,000円

## ○図書館員になるには〔資格と就職のガイド〕

菅原春雄編著 A5判 176頁

頒布価格1,500円

申込先 株式会社 新日本印刷

〒105 東京都港区虎ノ門1-25-12

電 話 (03-503-0428)

## ○関東・甲信越地区私立短期大学図書館雑誌紀要

総目録 1980 兼目 恵子編

55.7.31発行

B5判 253頁 頒布価格 3,300円

申込先 〒328 栃木市錦町5-26

ふろんていあ 電話 0282-24-6081

## ○近畿地区短期大学雑誌目録 1980.3月末現在

55.9.1発行

B5判 194頁 頒布価格 3,000円

申込先 丸善大阪支店またはお近くの丸善へ

## ○同 補遺版 56.7.5現在

B5判 52頁 頒布価格送料共500円

申込先 〒602

京都市上京区下立売通烏丸西入ル

平安女学院短期大学図書館

電話 (075-431-1181)

## ○東海・北陸地区私立短期大学図書館雑誌目録

1982

B5判 頒布価格送料共 3,000円

申込先 〒464 名古屋市千種区桜が丘23

愛知淑徳短期大学附属図書館内

私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会

電話 (052-781-1151)

□故間宮不二雄先生13回忌追悼出版□

DEWEY十進分類法導言 間宮不二雄訳

—昭和5年版の復刻—

発行：不二会（代表 もり・きよし）

菊判 116頁 頒布価格 1,600円

<希望の方は下記へ申込んでください>

株式会社 新日本印刷

〒105 東京都港区虎ノ門1-25-12

電 話 (03-503-0428)